

こっこめ通信 02 2026

「ご参加ありがとうございます」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて
「こっこめ」とよびます。

次々と南下する寒波。しかし今回は東の海上で低気圧が発達しないため、八丈島に流れ込む雪雲も少ないようです。そのため1月の月間降水量が平年200mmを大きく下回る過去最少の32.5mmとなっています。

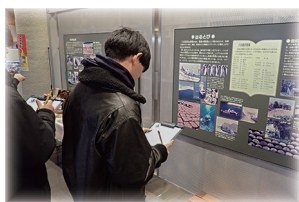
さて、今回は行事の様子をお伝えする「年末年始の行事」「黄色や赤の葉っぱであそぼう」「クロアシアホウドリを観察しよう」についてのお話です。

年末年始の行事

年末年始の八丈島は、普段とは少し違う空気をまとっています。初めて島を訪れる観光客、進学や就職で島を離れ、帰省で久しぶりに戻ってきた島生まれの若者たち。「二十歳のつどい」に参加する世代も加わり、島の内と外が自然に混ざり合います。観光の最盛期とも、日常の延長とも異なる、濃密で層の厚い時間が流れるのがこの時期です。こうした空気の中で行われた年末年始の行事は、人と島との関係を編み直す機会だったと個人的には感じています。

「こっこめクエスト Revival in Winter」はその象徴的な試みで、9日間の開催期間中、参加者は計441名でした。島の自然や歴史を「クエスト」として館内の展示物の中に潜む答えを辿るこの企画では、全問正解を目指すことよりも、答えに辿り着くまでのプロセスを楽しむ参加者の姿が多く見られました。問題用紙を片手に、ある場合は独りで黙々と、ある場合は互いに意見を交わしながら、十分に時間を掛けて探索する姿が印象的でした。

参加者の背中をそっと押していたのが、参加賞として用意された缶バッジのガチャです。クエストを終えると一回引けるというこの仕掛けは、「最後まで探してみよう」という気持ちを自然に引き出していました。缶バッジには、ザトウクジラやクロアシアホウドリなど、子供にとっても親しみやすい冬の八丈島を象徴する生き物が多くあしらわれ、季節と島の時間を手のひらサイズで持ち帰ってもらいました。さらにガチャには「当たり札」も忍ばせ、それを引いた参加者には「たまきょうりゅう」のクリアファイルをプレゼントしました。「当たるかもしれない」という期待そのものが体験の一部となり、大人だけでなく子供たちにも楽しみが与えられていたら嬉しいです。



「体験八丈太鼓」は、正月三ヶ日の午後に実施され、3日間で計124名が参加しました。そこには初めて太鼓に触れる観光客や帰省中の若者に加え、檜立踊りで太鼓を叩いている地元の方の姿もありました。

島の子供たちは、譜面ではなく、日常の中で耳にしてきたリズムを自然に身体で捉え、島のリズムをしっかりと叩いていました。その姿は、文化が「教えられるもの」である以前に「暮らしの中で身についていくもの」であることを如実に示していました。言葉が通じなくとも、音が場を繋ぐ……実際に参加した外国の方が、SNSで自身の太鼓の動画と共に「Tokyo has island dialects and custom. (東京には島の方言や文化がある)」と紹介してくれたことは、八丈島の伝統文化が、身体的な体験として伝わった証でもあったと思います。

年末年始のガイドウォーク(7回計36名参加)も含め、これらの「節目の行事」が、八丈島を「一時的に賑わう場所」にするだけではなく、島に初めて来た人、久しぶりに戻ってきた若者、日常を生きる島の人々が、同じ時間と体験を共有し、それぞれが記憶に残し、島への見方を少しずつアップデートしていく時間だったと感じました。(R.T.)

「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

「黄色や赤の葉っぱであそぼう」

未就学児とその保護者を対象としたクラフト行事「いっしょに作ろう！」を1月23日に開催しました。朝から雪が降る寒い一日となりましたが、親子6組15名が参加してくれました。秋の紅葉が少ない八丈島では、冬を迎えるこの時期に、赤や黄色に色づいた葉が目立ちます。今回はそうした葉で2つの作品作りに取り組みました。1つは菓子箱を再利用して額を作りその中に押し葉をレイアウトしたアートフレーム、もう1つは透明プラカップ2個を使い1個に葉を貼りもう1個を重ねてリボンを通して作った「おさんぽバッグ」です。

制作では、机に並んだ葉の中から、母親が声をかけながら子どもに好きな葉を選ばせる姿が印象的でした。形や色を見比べ、迷いながら選ぶ時間そのものが、親子にとって大切なやり取りになっているようでした。どちらの名札にも顔に見立てた葉の上に目玉のシールを貼り、それぞれ思い思いの表情が生まれていました。

完成後は、作った作品を首にかけたまま歩き回ったり、いつの間にか別の場所へ行ってしまう子ども姿もあり、保護者が後を追う場面も見られました。思うように進まない子育ての大変さが垣間見える一方で、そうした様子を含めて受け止め合える空気が、この場のやさしさでもありました。

メイン担当のM.K.さん曰く「今回は絵本を使った紅葉の読み聞かせはできなかったけど、制作に集中することで時間配分にも無理はなく、次回につながる手応えのある行事だった」とのこと。雪の降る朝に、自然素材に触れ、親子で同じ時間を過ごすことが、日常の中の小さな癒しとなるひとときでした。(R.T.)



「クロアシアホウドリを観察しよう」

1月24日、八文学講座「クロアシアホウドリを観察しよう」を開催しました。寒波の南下で風が強くなる予報でしたが、海岸に立つことができる風だったため、強行開催しています。

大越アロエ園でクロアシの生態や八丈小島での繁殖や調査の様子を紹介した後、大越展望台に移動しました。しかし吹き上げる風に耐えられず、少し風の当たらないナズマドへ移動しています。この場所からは繁殖場所である小島の鳥打付近も見え、そこから飛び立つクロアシを観察しました。

双眼鏡で水平線近くを丹念に探すと時折、水平線からクロアシが浮かび上がります。アホウドリ類は風を利用したダイナミックソアリングで飛んでいます、風が強くとあまり高く飛んでくれません。そのため、波に隠れてすぐに見失ってしまいます。この日も「いた!」「見失った!」の繰り返しでしたが、どうにかすべての参加者が観察できました。行事は15時までの予定でしたが、あまりの寒さに30分早く終了となっています。

クロアシの他にも、ミサゴやチョウゲンボウ、ウミウ、ツグミなども観察できました。(H.T.)



八丈植物公園季節調査会の報告

年が明けて最初の季節調査会は参加者 2 名で実施し、シダ植物 15 種類を含む 55 種類を記録することができました。1 月 21 日に園内が解放されましたが、当日はまだ解放前だったため、ビジターセンター前からキョン舎周辺を調査しています。記録数はあまり伸びませんでした。寒さに負けず蕾や花をつけている植物たちを間近で観察できたので良かったと思います。さらに、キョン舎近くのカジマール付近ではページ下で紹介しているイワミセキレイも見ることができました。(K.T.)

八丈植物公園季節調査 2026 年 1 月 11 日 (日)、天気：くもり、気温：8.9℃ 調査者：2 名 VC：2 名

1	ヤブニッケイ	葉に虫こぶ目立つ			
2	タコノキ				
3	オオタニワタリ				
4	ニオイウツギ	実残る、実弾ける			
5	ニオイバンマツリ	紫の新芽			
6	オオシマザクラ	紅葉			
7	アオノクマタケラン	実	25 ツルグミ	蕾・花	シダ植物
8	アシタバ	花	26 ツワブキ	花・実	1 イシカグマ
9	アツバスマレ	花	27 トキワハゼ	花	2 オオタニワタリ
10	ウスベニニガナ	花	28 トベラ	実残る	3 オニヤブソテツ
11	オオシマカンスゲ	咲き始め	29 ニラバラソ	葉	4 カニクサ
12	ガクアジサイ	実	30 ノジスミレ sp.	花	5 タチクラマゴケ
13	キバナシュクシャ	実	31 ハゼノキ	紅葉	6 タチシノブ
14	キルトンサス	花	32 ハチジョウキブシ	花芽	7 タマシダ
15	クロツグ	実	33 ハナイバナ	花	8 ナチシケシダ
16	コナスビ	花	34 ハマヒサカキ	実	9 ノキシノブ
17	コハコベ	蕾・花	35 ヒサカキ	蕾	10 ハチジョウカナワラビ
18	サカキカズラ	蕾	36 ヒナギキョウ	実	11 ハチジョウシダ
19	シチトウスミレ	花	37 フウトウカズラ	実	12 ハマハナヤスリ
20	シマクサギ	実	38 ブラシノキ	花	13 ヒトツバ
21	ストレッチア	花	39 ホルトノキ	実	14 ホシダ
22	タイミンタチバナ	蕾・実	40 モクレイシ	蕾	15 マメツタ
23	タブノキ	鱗芽	41 モンステラ	実	
24	チヂミザサ	花	42 ヤツデ	花・実	

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、調査会でも観察された「イワミセキレイ」にスポットを当ててみたいと思います。



イワミセキレイ *Dendronanthus indicus*

セキレイ科イワミセキレイ属、国内では稀な旅鳥として記録があり、1970 年代には中国地方と九州で繁殖記録もあります。

八丈島でも過去に数回の記録がありましたが、今シーズンは 2025 年 4 月の北上と 2026 年 1 月の南下の渡りで立ち寄ってくれました。SNS によると 6 月に三宅島、10 月に神津島でも記録され、アイランドホッピングの渡りだったのかもしれません。(H.T.)

2026 02

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
1 ガイドウォーク 05:55 16:19 11:09 23:14	○ 2 06:22 17:06 11:41 23:50	3 06:46 17:50 12:13	立春 4 07:07 18:30 00:23 12:44	5 07:25 19:10 00:52 13:16	6 07:41 19:50 01:18 13:49	7 ガイドウォーク 07:58 20:33 01:42 14:25
8 ガイドウォーク 植物公園季節調査会 08:17 21:27 02:04 15:08	☾ 9 08:38 23:01 02:24 16:05	10 09:01 17:28 02:32	11 ガイドウォーク 09:29 19:10 11:02 20:30	12 11:02 20:30 04:47 13:40	13 04:47 13:40 09:41 21:21	14 ガイドウォーク 05:00 14:47 10:08 21:59
15 ガイドウォーク 05:17 15:34 10:31 22:32	16 05:35 16:15 10:55 23:03	● 17 05:54 16:54 11:21 23:33	18 06:15 17:35 11:50	雨水 19 06:36 18:16 00:04 12:21	20 06:58 18:59 00:34 12:54	21 ガイドウォーク 07:19 19:45 01:04 13:30
22 ガイドウォーク 07:40 20:37 01:32 14:11	23 ガイドウォーク 08:00 21:45 01:58 15:00	☾ 24 08:19 16:05 02:19	25 00:03 08:38 02:12 17:38	26 08:42 19:28 19:28	27 04:35 12:51 09:50 20:47	28 ガイドウォーク 八文学講座 「クジラを探そう」 特別講演会 「おじゃれ! 深海の世界へ」 04:44 14:36 10:06 21:40

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう!
2/8 (13:30 ~ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費: 無料 定員: 10名

八文学講座 「クジラを探そう」

毎月行っている八文学講座。ザトウクジラの解説を行い、双眼鏡を貸出します。一緒に観察しましょう!
2/28 (13:30 ~ 約1時間半)
誰でも 中之郷藍ヶ江「足湯きらめき」下(予定) 時間内に自由集合 参加費: 無料 定員: なし

特別講演会 「おじゃれ! 深海の世界へ」

JAMSTECの藤原義弘さんを講師にお招きし、深海の神秘の世界を紹介していただきます!
2/28 (18:00 ~ 約1時間半) ビジターセンターにて
小学生以上(小学生は保護者同伴、未就学児同伴不可) 参加費: 無料 定員: 55名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日祝日及び休日、(10:30 ~ 約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員: 10名

ビデオプログラム

10:00 ~ 八丈・海・生きものたち

11:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

14:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

15:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

16:00 ~ 八丈・海・生きものたち

当面の間は上記のみの上映になります

東京都八丈ビジターセンター 2026.2.1 第297号

開館時間 9:00 ~ 16:45 年中無休(入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話: 04996-2-4811 Fax: 04996-2-4888

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

毎月、島らしい生きものを紹介していたコーナー(3ページ目)ですが、今月号から島では珍しい生きものや初記録などの生きものを紹介することにしました。移入種として入ってきたであろう生きものも紹介していく予定です。(H.T.)